



低価格が売りの施工会社が 死亡事故により事業継続を断念

賃貸アパート建築を手掛ける則武地所

東京・八王子市で発生したアパート階段崩落死亡事故の施工会社「則武地所」（相模原市）が5月13日に自己破産を申請しました。4月17日の事故発生後、ゴールデンウィーク（GW）期間中の4月29日から5月12日まで、「GW及びコロナウイルス感染症拡大防止のため営業自粛」を自社ホームページ上で公表していましたが、そのまま事業継続を断念しました。

「低単価」に手抜き工事の疑いも……

則武地所の創業は2000年。地元相模原市を中心に、賃貸用3階建て木造アパートを得意とし、ワンルーム用アパート建築を主に手がけてきました。個人地主や投資家を中心に、投資利回りのよい物件として安定した受注を獲得。近年ピークの2017年4月期には年売上高約20億5,100万円を上げていました。主力の3階建て木造アパートの建築単価は1室当たり250万円程度と、同業他社に比べて20%以上低単価に抑えられる点を売りにしていました。

いま思えば、こうした“低単価”は杜撰な「手抜き工事」に支えられていた疑いが多分にあります。則武地所は4月の死亡事故前から、過去に複数回の行政処分歴があるなど、業界内で「コンプライアンス面での課題が散見される会社」（取引先）と見られていたのです。取引先への工事代金支払いの遅れも、業績が悪化し始

めた2018年頃から常態化。「1年以上、未払いが続くこともザラだった」（都内工事業者）といます。2020年4月期の年売上高は約9億7,800万円と、ピーク時の半分以上に落ち込みました。

火のないところに煙は立たない!?

このように、地元同業者の間で悪評が流れていたものの、すぐに破綻が表面化することはありませんでした。会社の内情をよく知らない個人投資家や地主からは、ひと頃に比べて減ったとはいえ一定の引き合いがあったからです。

その際に会社のイメージアップに寄与したと見られるのが、見栄えのよいホームページ。現在は閲覧できませんが、トップページには「薫るヒノキ、広がる笑顔」の大きな文字。続けて「工程のすべてを自社で行うことで、快適なヒノキの家を驚きの低価格でご提供いたします」とあります。何も知らない人が見たら、この会社に頼んでみようかと思っても不思議ではないほど、好印象を与えるものでした。

結果的に、高い投資利回りに引き寄せられ、則武地所に施工を依頼したアパート所有者は事故後、多大な負担を強いられました。

現時点で警視庁が捜査中の段階であり、会社が意図的、組織的に「手抜き工事」を行っていたか断定的なことは言えませんが、「安かろう悪かろう」だから仕方ない、では決して済まされません。

ないとう おさむ 2000年に株式会社帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支店情報部を経て2018年10月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は倒産動向分析、企業再生研究。